

授業概要

対面・オンライン(リアルタイム/オンデマンド)、三種の受講方法が選べるハイフレックス方式で行います。(リアルタイム方式:対面授業をリアルタイムで ZOOM から配信します。オンデマンド方式:その録画を YouTube にアップロードし、URL を Teams よりお知らせします)。受講方式による成績評価の差はありません。オンライン受講での出席確認方法等の詳細は第1回講義でお話しします。

中国とその周辺地域の歴史を、まだ教科書には反映されていない、近年の研究成果を踏まえながら講義します。いわゆる「通史」という形ではなく、幾つかのトピックを取り上げる形で歴史過程を概説し、「民族」とは何なのかについて考えます。過去の制度や思考法は、現代に至るまでの間に失われたのか、残存しているのかを考えることを糸口に、歴史を踏まえた現代社会の再検討を、各テーマごとに試みます。まずは、現代の中国やその周辺地域で生活する人々の、文化や社会を知ってもらおうと思います。そして、その背景にはどういった歴史があるのかを考えていく形で講義を進めます。その時、その地域を生きていた人々が、どのような感情を抱き、どのようなことを考えたのかを、当時の人たちの視点から考えてみて欲しいと思います。

授業計画

第1回	東アジアの環境と生活① — 中国(多様な環境と食文化)
第2回	東アジアの環境と生活① — 中国(黄河流域の生活風景)
第3回	東アジアの環境と生活① — 中国(長江流域の生活風景)
第4回	東アジアの環境と生活① — 中国(言語と地理)
第5回	東アジアの環境と生活② — モンゴル(乾燥地帯の環境と食文化)
第6回	東アジアの環境と生活② — モンゴル(遊牧民の生活風景)
第7回	東部ユーラシアの歴史と民族① — 異民族と中国の王朝(孵化王朝と征服王朝)
第8回	東部ユーラシアの歴史と民族① — 異民族と中国の王朝(長城を越える異民族)
第9回	東部ユーラシアの歴史と民族① — 異民族と中国の王朝(黄河・長江を渡る異民族)
第10回	東部ユーラシアの歴史と民族② — 民族と意識(「中国」が意味するもの)
第11回	東部ユーラシアの歴史と民族② — 民族と意識(華夷思想の包容性)
第12回	東部ユーラシアの歴史と民族② — 民族と意識(「中国人」は誰か)
第13回	東部ユーラシアの歴史と民族② — 民族と意識(「国民」とされる少数民族)
第14回	東部ユーラシアの歴史と民族② — 民族と意識(「台湾人」と「香港人」)
第15回	東部ユーラシアの歴史と民族② — 民族と意識(民主主義と国民意識)
第16回	筆記試験

到達目標

- ・高校までの日本史や世界史とは異なり、おぼえることではなく「知る」こと、知ったことをもとにして「考える」ことを重視する、大学で学ぶべき「歴史学」の学びを、本講義の受講を通じて経験したと自覚できる。
- ・「中国とその周辺地域の歴史、そして文化や社会の一端を知ること、視点を相対化し、私たちが生活する日本を含め、現代の世界と社会を見つめ直す」。本講義を、以上を「意識」するきっかけとできる。

履修上の注意

受講条件は特にありません。中国史に限らず歴史一般、歴史に限らず現代中国に興味・関心のある学生の受講も歓迎します。また、高校での日本史や世界史の基礎知識も求めません。歴史上の出来事や人物、歴史用語や年代を暗記する必要はありませんし、それらをおぼえることも重視しません。

予習復習

講義は、幾つかのテーマを掘り下げる形で行います。予習復習として、通史的理解や、ある特定の時期の全体像についての知識を、NHK 高校講座「世界史」(1回20分、ネット視聴できます)や、web 漫画(講義の中で紹介します)等で補い、講義内容への理解を深めてください。

※NHK 高校講座「世界史」URL: <http://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/sekaishi/>

評価方法

平常点 60 点、期末課題(試験) 40 点で評価します。平常点は、毎回提出してもらいうりアクションペーパーの内容により評価します。

テキスト

講義で配布するプリントをテキストとします。参考文献は講義の中で紹介します。